

えなみちく いらか なみ  
榎列地区の 麓の波

所在地：南あわじ市 榎列



榎列地区の瓦葺きの住宅

淡路瓦は、淡路島が誇る伝統産業の1つで、三河、石州とともに三大瓦産地となっています。

瓦の生産は、国分寺跡（旧三原町）の発掘調査から、奈良時代に始まったと推測されています。産業としては、江戸時代に発展し、特に明治初期から一般民家への需要が急増しました。淡路瓦は、「いぶし瓦」が主流でしたが、昭和38年頃からは「陶器瓦」の生産が盛んになりました。

かつては、島内各所に淡路瓦葺きの集落があり「麓の波」の景観を望むことができましたが、生活様式の変化から淡路瓦葺きの建物も少なくなりました。そんななか、榎列地区には淡路瓦葺きの建物がよく残っており、「麓の波」を楽しむことができます。

- 【景観の特徴】
- 自然が作りだす景観
  - 歴史が作りだす景観
  - ✓ 生活・文化が作りだす景観
  - 新しく作りだす景観

## 【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原ICから県道31号線、県道477号線へ。車で約20分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図